

2017年度 事業計画



1.(教育事業:第1部会)事業計画

第1部会のめざす方向

人材育成の場づくり

産業界のニーズにあった「質」の高い人材育成基盤整備
＜必要なプラットフォームの役割＞
各技術者のスコープに応じた人材育成・支援の役割。

【ステップ4の活動方針】

- 組込み適塾のブランド力強化
- IoT時代の組込み技術者に必要となるスキル育成
- 遠隔講座の拡充や運営体制整備による継続性の確保

高度人材の輩出

第1部会のめざす方向

目指す高度人材とは・・・

【組込み製品を活用したビジネスを創造できる次世代人材の育成】

- ・システム全体を見通し、何のために(Why)、何を(What)、どのように(How)、作り込むのか(Do)、を見極めつつ、プロジェクトをリードできる人材。
- ・新たにIoT時代をリードする「つないで」「みつけて」「うみだす」ための人材。

ニーズ変化の背景(組込み業界の環境動向)

● 組込み開発とIoT分野の融合

組込みシステムがネットワーク化し、IoT分野との融合が急速に進んでいる。そのため、全体を俯瞰した全体設計力の強化、システムとシステムをつなぐ力(System of systems)、技術を組み合わせる力、更にはサービス・ビジネスまでを見通したシステム設計・構築スキルが求められる。

● ビジネス動向・必要技術の変化

【注力分野】ヘルスケア、エネルギーハーベスト、車載組込みシステム、センサーネットワーク開発などのIoTシステム開発

【注目技術】セキュリティ、機能安全、クラウドセンシング、ビッグデータ

● 組込み適塾カリキュラムの拡大

組込み適塾の拡大につれ、部会体制・運営力の強化やプロモーションの拡充など、運営面での質の向上や安定によるブランド力の維持・強化が今後求められる。

反映

2017年度 事業計画

1. 「組込み適塾」ブランドの価値向上と運営力強化

- － 第10回組込み適塾の改善・拡充とプロモーション強化(①、②、③)
- － 安定かつ効率的な適塾運営に向けた運営力強化(④)
- － WINKとの連動による相乗的ブランド力向上(①)

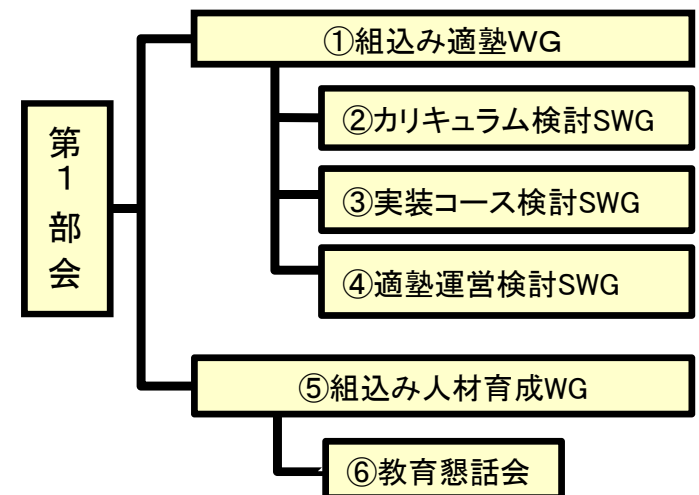
2. 自由に議論が出来る”場”の提供

- － 講師/受講生間および修了生を含めた自由で活発な交流の場の提供
- － ITを活用した講師/受講生間の円滑なコミュニケーションの実現(④)

3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献

- － 教育懇話会を通じた人材育成施策の検討(⑤、⑥)
- － 企業の人材育成プログラムへの組込み適塾の積極活用支援(①、⑤)
- － 組込み適塾修了生が活躍できる場の拡大(WINKとの連携)(①、⑤)

検討体制



2.(ビジネス支援・技術競争力強化事業:2部会)事業計画

第2部会のめざす方向

ビジネス機会創出の場づくり

技術競争力強化の場づくり

【Step4活動指針】

産学官連携プラットフォームとして「×IoT」で安全安心を基盤とする新たな価値創出を目指す

新商品・新事業創出力強化を支援

製品開発力強化を支援

第2部会のめざす方向

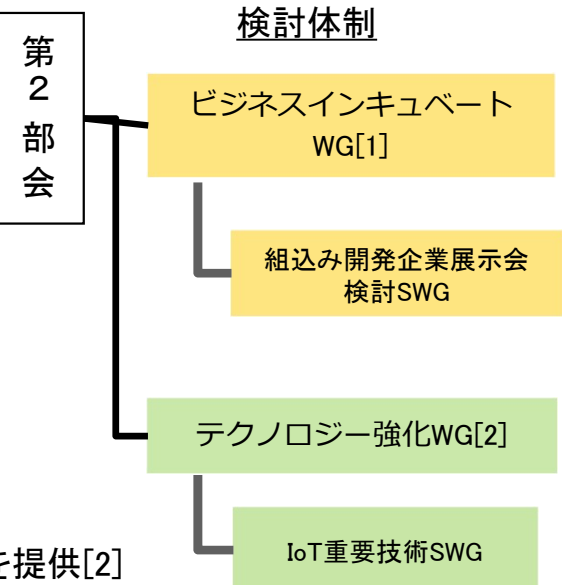
反映

ニーズ変化の背景(組込み業界の環境動向)

- 市場拡大への期待
ロボット、ヘルスケア、環境・エネルギー(機構の注力分野)に加え、IoT、M2MのICT分野やビッグデータ、人工知能等への市場拡大が期待されている。
- オープンイノベーションの必要性
多様化する市場ニーズに対応するため、技術、商品調達もオープンイノベーションの活用に移っている。これを受け、組込み開発ビジネスも、自社の強みソリューションをコアに、他社協業による技術提案力強化、ニーズ・シーズマッチング力強化を図ることが必須になりつつある。
- 適用範囲の拡大
組込み技術の重要性は、多くの工業製品で認識が高まっており、組込み技術の適用範囲はまだまだ広がっている。

2017年度 事業計画

- 展示会開催によるビジネス支援と戦略的出展によるマッチング精度向上
 - 戦略的な出展先(業種、企業、部署)選定と、出展先企業のニーズ情報を事前提供し、展示商品、技術へ反映することでマッチング精度を向上。[1]
 - 組込み開発企業展示会の効果の定量化による客観的評価と出展先企業への継続的な情報提供方法の確立。[1]
 - 組込み開発企業展示会準備作業の効率化による出展企業の負担軽減。[1]
 - 出展先企業への依頼プロセスの確立。[1]
- IoT重要技術の調査およびプライベートセミナーによる技術競争力強化支援
 - IoT重要技術の定点調査、およびトピックス調査による技術競争力強化支援。[2]
 - 技術調査に裏付けされたプライベートセミナーを企画・開催し技術競争力強化支援。[2]
 - ワークショップ開催による会員交流・会員連携につながる場の提供。[2]
- WINK2017と連携しオープンイノベーション創出の場を提供
 - プライベートセミナーでのテーマ展示、ワークショップでのアイデアのブラッシュアップの場を提供[2]
 - 組込み開発企業展示会テーマとマッチした商品・サービス商品は、出展を提案しビジネス支援。[1]



3.(企画広報事業)事業計画

企画・広報のめざす方向

情報発信交流の場づくり

他地域連携の場づくり

会員協働の場づくり

国内外の組込み産業・技術情報の集積と発信

<必要なプラットフォームの役割>

・情報の集積と発信、交流・連携のための役割

【ステップ4の活動方針】

- イベント・セミナーの継続開催による事業基盤の拡大
- ホームページ、メディア、Facebook、メルマガなどによる広報活動の充実
- 部会活動と連携し研究会を活性化

部会活動の活性化

機構プレゼンスの向上と連携拡大

企画広報のめざす方向

反映

ニーズ変化の背景(組込み業界の環境動向)

- 組込み開発分野のオープンイノベーションの加速促進
スピードが求められる今日の競争環境において、必要な技術を自社の研究開発力だけに頼る「クローズド・イノベーション」では、市場の変化に素早く対応することが困難になっている。自社技術だけでなく他社が持つ技術やアイデアを組み合わせ、革新的な商品やビジネスモデルを生み出す「オープン・イノベーション」への転換が進んでいる。
- ビジネス動向・必要技術の変化
組込みシステムが情報家電分野からロボット・ヘルスケア・エネルギーといった新たな産業分野にも拡大するに伴い、クラウドや開放系システム、省エネなど新たな技術が組込み開発に求められるようになっている。
- 組込みシステムのIoT化とセキュリティへの対策
組込み開発分野のIoT化が進むにつれ、組込みシステムがサイバー攻撃の対象となり、社会問題になるなど世界的に「システムが安全であること」への要求が高まっている。

2017年度 事業計画

1. “WINK”コンテストを軸としたオープンイノベーションの新たな仕組みづくり
－更なるサービス創出を見据えた産学官連携によるワークショップコンテストの実現
－第1部会、第2部会、企画・広報連動による協働型サービスインキュベーション施策の実現
2. 国立研究開発法人、大学、独立行政法人との連携による競争力強化のきっかけづくり
－研究機関との連携施策による注力分野の情報発信や共同研究のきっかけづくり
－セキュリティ、IoTなどの成長分野をテーマとした情報発信や研究会支援
3. 地域間連携及び団体間連携による更なる活動基盤の拡充
－第7回全国組込み産業フォーラムによる震災復興支援と団体間交流
4. 各部会施策の広報支援及びマルチメディアプロモーションによる機構のプレゼンス向上
－機構主要施策のプロモーション及びFACEBOOK・メルマガなど電子メディアを通じた情報発信
－関連団体イベントへの共催・後援・出展・講演などを通じた情報発信